

2023年11月14日  
宝塚歌劇団

外部弁護士からなる調査チームの調査報告・提言を受けた  
宝塚歌劇団の今後の対応について

このたびの宝塚歌劇団（以下 当団）宙組生の急逝を受け、謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様には、大切なご家族を守ることができなかったことを心よりお詫び申し上げます。

また、多くの宝塚歌劇ファンの皆様ならびにご関係の方々にご多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますことをお詫び申し上げます。

当団では、このたびの事実関係及び原因を調査するため、外部弁護士からなる調査チームに対し調査を依頼し、11月10日19時37分にその調査報告書（以下 報告書）を受領いたしました。

当団としましては、報告書の内容を真摯に受け止めており、対処すべき課題（提言）としてご指摘いただいた内容を含め、今後、改善に取り組んでまいります。

今回の報告書を受けて、当団の受け止めと今後の改善策についてお知らせします。

1. 報告書について

今回の調査は、宙組生（以下 故人）がお亡くなりになられた事実（本件事案）に関し、当団ならびに阪急阪神ホールディングス及び阪急電鉄と契約関係のない弁護士事務所により、当団から独立した形で実施されたもので、報告書では、調査結果と、それに基づく背景分析や原因の考察とともに、対処すべき課題（提言）が示されました。

報告書の概要版は別紙のとおりです。なお、個人のプライバシー保護の観点から、報告書の一部の情報は伏字とさせていただきます。

2. 「本件事案が発生した原因に関する考察」について

報告書では「本件事案が発生した直前期の出来事は、それぞれ一定の強度の心理的負荷であったとの評価があり得、これらを総合すると、（厚生労働省が発出する心理的負荷による精神障害の）認定基準において客観的に精神障害を発病させる恐れのある強い心理的負荷であるとされる場合に相当する強い心理的負荷が故人にかかっていた可能性が否定できない」との指摘を

受けました。直前期の出来事として挙げられたのは以下の項目です。

- (1) 長の期\*としての役割や業務の負担を増大させる特殊事情
  - ・ 前作後に故人の同期 5 名のうち、2 名の退団と 1 名の休演があり、娘役 2 名のみで長の期の活動を行うのは初めてであったこと
  - ・ コロナ禍明けによる様々な制度変更が存在し、その調整が必要となったこと
  - ・ 公演の演出の面で下級生に教えなければならないことが多々あり、長の期としての負担が大きかったこと
- (2) 長時間にわたる活動
  - ・ 公式稽古・自主稽古
  - ・ 公演のためのアクセサリーやかつら等の準備活動
  - ・ 長の期の長\*として、自身の稽古以外に求められる活動
- (3) 上級生から故人らに対する指導が多数重なった事実

当団としても、この指摘に真摯に対応してまいります。当時、故人に対する適切なサポートや心情への寄り添い等ができていなかったことについて、当団として管理責任を感じるとともに、誠に申し訳なく、ご遺族には心からお詫び申し上げます。

※新人公演に出演する入団 7 年目以下の生徒の最年長の期を「長の期」、その長を「長の期の長」と呼ぶ。「長の期」は下級生を指導し取り纏める立場を担い、「長の期の長」は、入団 5 年目の劇団試験の成績順により決まる。

### 3. 当団の対応について

当団は、報告書の内容を真摯に受け止め、今後、誠意をもってご遺族とお話し合いをさせていただきたいと考えております。

また、報告書で示された対処すべき課題（提言）をもとに、実効性のある再発防止策に、着手可能なものから直ちに取り組んでまいります。

現時点で検討している対応策は次のとおりです。

## 【報告書に記載された提言に対する当団の対応策について】

### (1) 過密な公演スケジュールの解消

#### ① 年間興行数の見直し【2024年より】

- ・ 年間9興行から8興行体制へ変更する。これにより、公演と公演の間のインターバルを増やし、前公演の千秋楽から次公演の公式稽古開始までの間に、一定期間の休日確保する等、スケジュールの改善を図る。(参考資料①)

#### ② 1週間あたりの公演数の見直し【2024年後半の公演より】

- ・ 本公演（宝塚大劇場公演・東京宝塚劇場公演）の公演回数を、現行の週10回から週9回に変更する。昨今の振付や音楽等の高度化に伴い、出演者の負担が非常に大きくなっており、週9回とすることでこれらの負担を軽減する。

### (2) 自主稽古の在り方の改善（過密な稽古スケジュールの改善）

- ・ 稽古スケジュールを緩和するため、上記の8興行化により、休日の確保とあわせて、稽古期間を延ばすことも検討する。
- ・ 東京宝塚劇場公演において、初日の午前中に通し舞台稽古を実施するスケジュールを見直し、初日の前日に実施することで負担を軽減する。
- ・ 自主稽古は自己研鑽の場であり、参加を強制するものではないが、演出の高度化・複雑化に伴い、公式稽古の補完的目的の稽古が増加している状況に鑑み、公式稽古のスケジュールを見直すとともに、劇団施設への入退館時間の短縮といった物理的な対策も検討する。  
(参考資料②)
- ・ 稽古用小道具の準備や段取りに伴う下級生の仕事の負担を軽減するため、その簡素化・効率化を進める。

### (3) 新人公演の在り方の見直し

- ・ 新人公演に出演する最上級生（入団7年目、長の期）の負担を軽減するため、業務分担の見直し、簡素化・効率化を進める。
- ・ 本公演の初日直後から新人公演の稽古を開始する負担が大きいことから、例えば、新人公演の実施を1週間遅らせ、稽古開始を初日後の休演明け火曜日からとすることなども検討する。

(4) 組ルールの整理・合理化

- ・ 上級生から下級生への指導方法について、過去からの伝達や継承が積み重なった結果、非効率・不適切となったものを改善し、芸の伝承が適切に行われるようサポートする。

(5) 当団が劇団員の意見・思いを吸い上げる体制の構築

- ・ 現在、劇団内に設けているハラスメント相談窓口や、グループ共通の企業倫理相談窓口の周知徹底に加えて、劇団専用の外部通報窓口を新たに設置し、劇団員の意見が劇団の経営層に直接届く仕組みを整備する。
- ・ 併せて、劇団診療所の医師・看護師による日常的なケアに加えて、常設のカウンセリングルームの拡充や利用促進を図り、心のケアに努める。

(6) 実効的な監査体制の整備

- ・ 阪急阪神ホールディングス及び阪急電鉄の監査部門とも連携し、人事労務等も含めた業務監査が行える体制を整備する

(7) 組長・副組長の養成や負担軽減策の実施

- ・ 組長・副組長、上級生、下級生といった各階層別に、マネジメントやチームビルディング、指導方法やハラスメント等に関する教育や研修を実施するとともに、上記(5)(6)も含めたモニタリング体制の強化により、劇団員の業務的・精神的負担の状況を把握し、改善に努める。

当団といたしましては、出演者やスタッフなど関係者が安心してより良い舞台づくりに専念できるよう、またお客様に心から楽しんでいただける公演をお届けできるよう、今後も弛まぬ取組を進めてまいります。

以上

年間 **9 興行** の場合 (本公演 [宝塚大劇場・東京宝塚劇場] + その他公演)

参考資料①

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
花組	①	①			④			⑥	⑥			⑨
月組		②	②			⑤			⑦	⑦		
雪組	①			③	③			⑥			⑧	⑧
星組		②			④	④			⑦			⑨
宙組	⑨		③			⑤	⑤			⑧		

— 宝塚大劇場 — 東京宝塚劇場 — その他の公演

年間 **8 興行** の場合 (本公演 + その他公演)

参考資料①

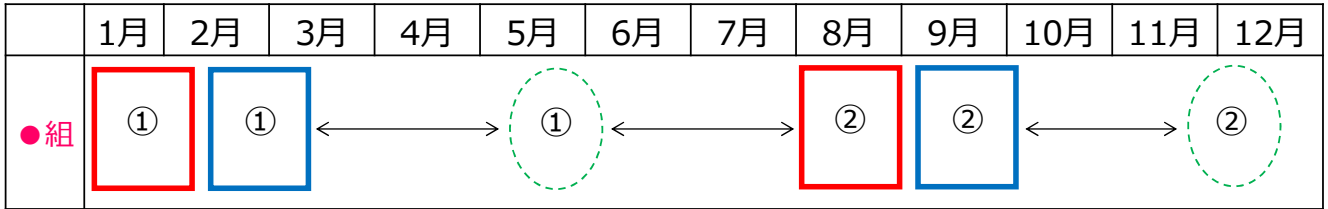
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
花組	①	①				④			⑥	⑥		
月組		②	②				⑤			⑦	⑦	
雪組	①			③	③			⑥			⑧	
星組		②			④	④			⑦			
宙組	⑧		③				⑤	⑤			⑧	

— 宝塚大劇場 — 東京宝塚劇場 — その他の公演

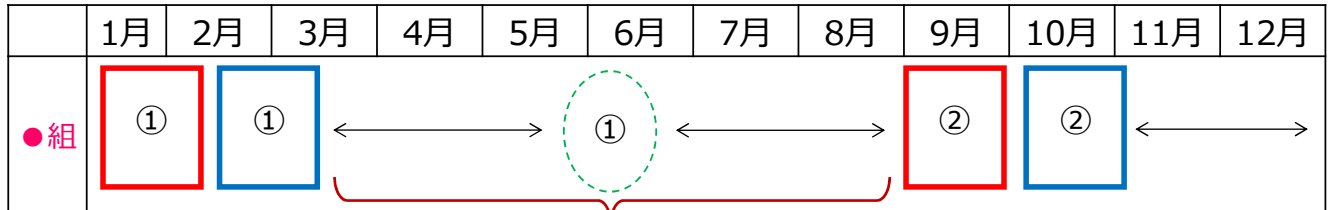
# 年間公演スケジュールの見直し（9興行→8興行）

参考資料①

## ●年間9興行 ※宝塚大劇場公演2回、東京宝塚劇場公演2回担当する巡りの組の場合



## ●年間8興行 ※宝塚大劇場公演2回、東京宝塚劇場公演2回担当する巡りの組の場合



本公演の間隔（東京宝塚劇場の千秋楽から次の宝塚大劇場の初日まで）が約2週間延びる

— 宝塚大劇場 — 東京宝塚劇場 — その他の公演

参考資料②

## 稽古時間について

### ●現状 施設利用可能時間（6時～23時50分）

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
			自主稽古等 (開始時間は日による)				公式稽古 (13:00～22:00)										自主稽古等			

- 施設利用可能時間以降であれば、入館時間、自主稽古の開始時間は任意。
- 公式稽古終了後（22時終了厳守）、生徒による自主稽古が行われることが多い。
- 23時50分を最終退館時間としており、同時刻に館内照明が一斉消灯される（同時刻以降に在館する場合、個別申請が必要）。

### ●課題及び今後の対応

- 自主稽古の目的が、演出の高度化・複雑化に伴い、「公式稽古の補完」と「自己研鑽」の区別が難しい状況となっている。
- 自主稽古の実態を把握し、公式稽古のスケジュールを見直すとともに、劇団施設への入退館時間の短縮といった物理的な対策をも検討する。